

令和6年度

熊本市立本荘小学校のスタートにあたって

熊本市立本荘小学校



# 学校経営構想の概要

校訓 “なかよく・かしこく・たくましく”

教育目標「あいうえお」いっぱいの子どもの育成

## 重点努力目標

「自尊感情を高め未来を切り拓く力を

身につけるための人権教育の推進」

## 経営の方針

笑顔と思いやりの心で

「学校が楽しい、授業が楽しい、みんな大好き」

笑顔の本荘小

# めざす学校像 児童像 教師像

<b>めざす学校像</b> 思いやりの心で笑顔あふれる 一人一人の人権が大切にされた楽しい学校	<b>めざす児童像</b> 思いやりの心で笑顔あふれる人権感覚豊かな子ども	<b>めざす教職員像</b> 思いやりの心で笑顔あふれる人権感覚の高い教師
1 子どもも教職員も笑顔で生き生きと 学び合う学校	あ あいさついっぱいの子ども	○ 一人一人の子どもの願いや悩みを 理解し、愛情深く寄り添い導く教職員 (「子ども理解」と「授業UD」の観点から)
2 安全・安心な生活ができる学校	い いのちを守る心いっぱいの子ども	○ 子ども・保護者・地域から 信頼される教職員
3 美しく整備され、落ち着きと潤いの ある学校	う 運動・歌声いっぱいの子ども	○ 授業力・指導力の向上等をめざし 常に研究と修養に努める教職員
4 希望と向上心にあふれる学校	え <u>笑顔</u> の学びいっぱいの子ども	○ 本荘小の一員としての自覚と 誇りをもち本荘小のよさ・伝統を さらに発展させる教職員
5 保護者・地域に信頼され、本荘っ子と ともに育ち開かれた学校	お 大きな夢いっぱいの子ども	

**重点目標** 「自尊感情を高め未来を切り拓く力を身につけるための人権教育の推進」  
 <認め、褒め、励まし、互いを理解し、支えあい、伸ばす>

学校経営スローガン

**思いやりの心と笑顔で「学校が楽しい、授業が楽しい、みんな大好き」本荘小**

- 人間尊重の精神を基底におき、人権教育を柱とし、徳・知・体の調和のとれた主体性・創造性・協働性にあふれる教育を推進する。
- 家庭地域社会との連携を図りながら、学習指導要領に基づいた、「生きる力」を育成するための「本荘小学校の教育」を推進する。

- 1 「子ども理解」を基盤とし、すべての子どもが大切にされる学校づくり
- 2 授業のUD化を図り、一人一人の学力を確実に伸ばす
- 3 すべての職員で一人一人の子どもの育てる(自尊感情を大切に)
- 4 すべての子どもが安全、安心にすごせる学校づくり

- 達成感のある授業づくり(授業改善、効果的な教材研究、「子ども理解」に基づいた実態分析)
- 子どもの困り感に寄り添う学級経営(特別支援教育の観点、授業UDの観点)
- 子どもを認め、褒め、励まし、自己肯定感を高める教師のかかわり
- 保護者・地域と手を携えながら子どもを育てる学校づくり

# 1年間を振り返って・・・

---



# 本荘小学校 春

あ い う え お  
あいさつ 命を守る心 運動☆歌声 笑顔の学び 大きな夢



# 本荘小学校 夏



# 本莊小学校 秋





本莊小学校 冬 陸上教室

# 学校だより



2023

## 学校だより 本荘 Smile

令和5年度 第65号  
令和6年3月22日  
熊本市立本荘小学校  
校長 西川 英臣

今年度最終日。令和5年度も大変お世話になりました。

今年度の学校だよりは、この65号が最終号になります。これまで、お読みいただきまして、本当にありがとうございました。今年度は3年間で一番発行することができました。毎年のことですが、ここまで学校だよりを出せたのは、毎日の子どもたちのがんばり、先生方のがんばり、そして、ご家庭のご理解とご協力、これにつきます。まず、そのことへの感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。(画像は拡大学校評議員会で使ったスライドの一部です。)

ここ最近の本荘小です



メッセージを通して 心があたたかくなる



タブレット型端末の活用 高学年



ご清聴ありがとうございました。



---

# 本荘小学校の取り組み

## 1 人権教育 人を大切にする学校

# 高学年 学びの中でつながる



# 低学年 活動の中でつながる





---

# 本荘小学校の取り組み

## 2 「子ども理解」と「授業改善」 学力の保障を

# コミュニケーション能力の育成



# ICTを活用した学習活動



# タブレット型端末の活用



---

本荘小学校の取り組み

# 3 子どもたちの自治活動

# わくわく集会 高学年のリーダーシップ育成が急務





# わくわく集会 大人の方からの助言にも学ぶ



---

本荘小学校の取り組み

## 4 地域に開かれた学校



---

# 6 人の生き方に学ぶ

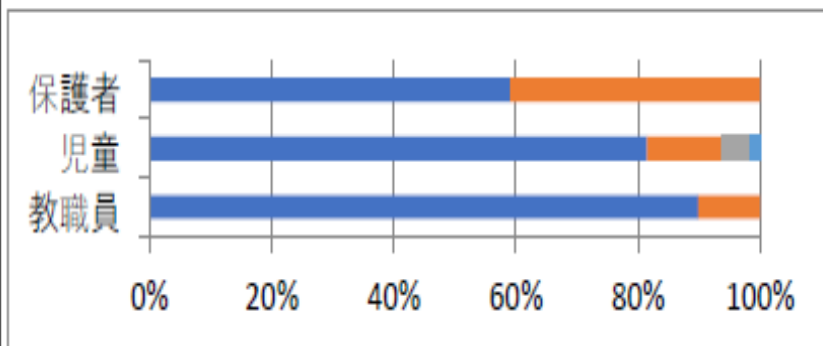


# 学校評価の結果から

## ①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

### 1 一人一人の児童生徒の尊重

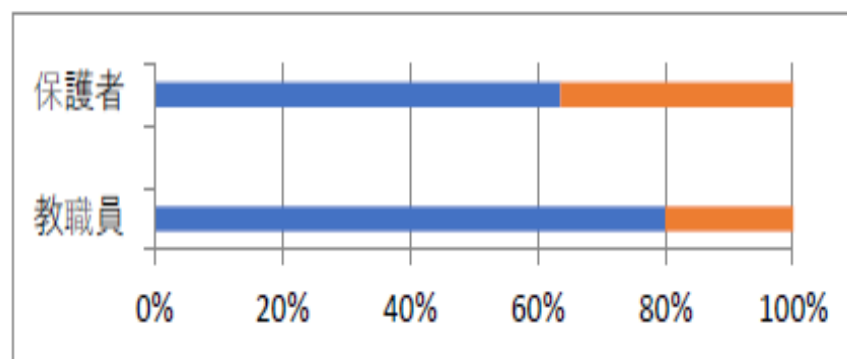
学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。



保護者・児童・教職員共に90%を超え、一人一人の子どもを大切にされた指導が概ねできている。しかしながら、児童の中にはどちらかと思うとそう思わない児童も数名おり、今後はより一層のきめ細やか指導が必要である。また、保護者の「3」が多いため、取組の周知が必要である。

### 2 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)



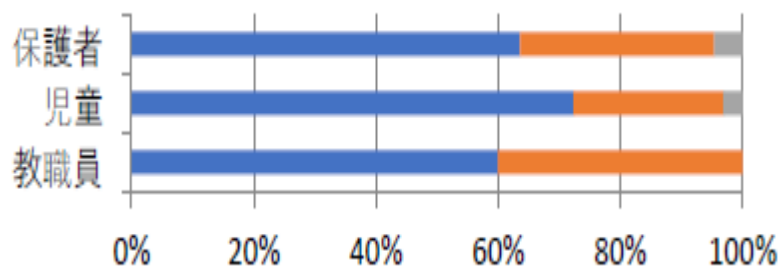
保護者・教職員共に「4」「3」の割合が100%であり、日頃から道徳の授業の充実や子どもの心に寄り添う教育が実施されているといえる。保護者と教職員との認識の差に開きがあるため、今後、道徳の授業の公開や親子道徳等の取組の周知を図っていく必要がある。

# 学校評価の結果から

## ②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

### 3 授業力向上

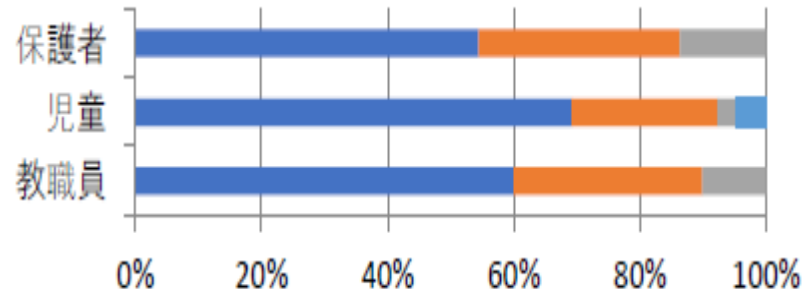
先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



教職員・児童・保護者の95%以上が、わかる授業、楽しい授業が実施されているととらえている。しかしながら、「どちらかといえばそう思わない」と回答している児童・保護者も数名いるので、個に応じたわかりやすい授業を実施し、学力向上を推進していきたい。

### 4 タブレット端末活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。



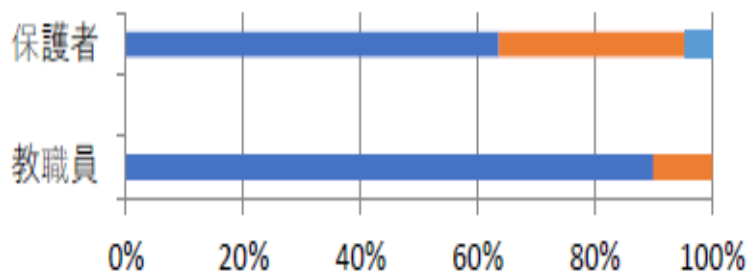
教職員・児童・保護者の80%以上が、タブレット端末を活用した学習が実施されているととらえている。一方で、どちらかといえばそう思わないと回答している保護者もいるので、効果的なタブレットの活用方法を指導し、家庭学習においても活用するようにしていきたい。

# 学校評価の結果から

## ③教員が子どもと向き合うための体制の整備

### 5 学校の支援体制

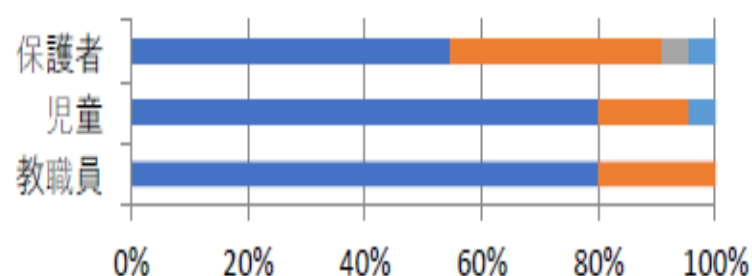
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。



教職員・保護者の95%以上が支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると捉えられている。「わからない」と回答している保護者も数名いるので、特別支援教育コーディネーターを中心に、保護者へ周知していく必要がある。

### 6 共生社会を担う人材の育成

学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。



保護者・児童・教職員の90%以上が「交流及び共同学習」等が相互理解につながっていると捉えられている。しかしながら、わからない等の回答もあるので、交流及び共同学習がどのようなものであるか情報発信するとともに授業参観等で授業の中で実施していることを周知する必要がある。

# 学校評価の結果から

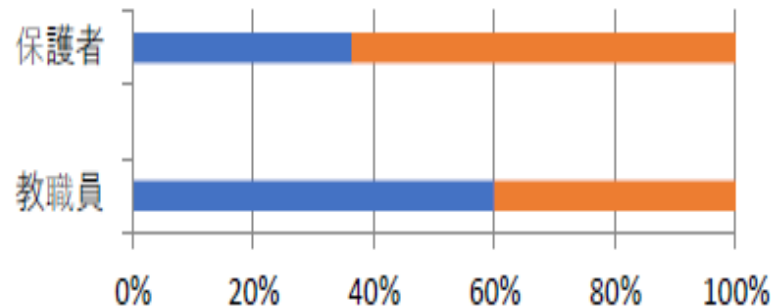
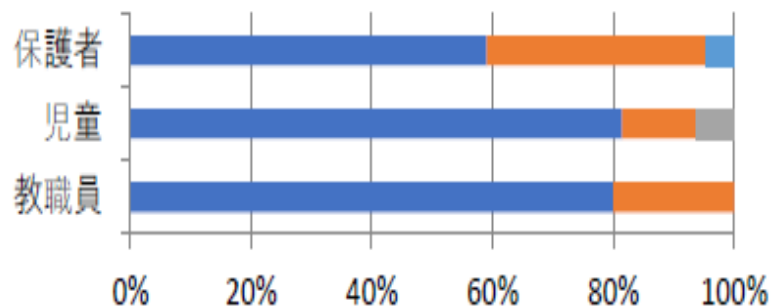
## ④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

### 7 安全と事故防止

### 8 家庭や地域との連携協力

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



教職員だけでなく、保護者・児童の95%以上が子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると捉えている。保護者の中には「わからない」と回答している保護者もあり、学校における安全教育の取組がどのようなことか理解されていないので周知の必要がある。

教職員・保護者共に家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を推進していると認識している。しかし、教職員と保護者の間に20%以上の開きがあるので、家庭や地域との連携・協力についての認識が同じになっていくよう、啓発や周知が必要である。

# 学校評価の結果から

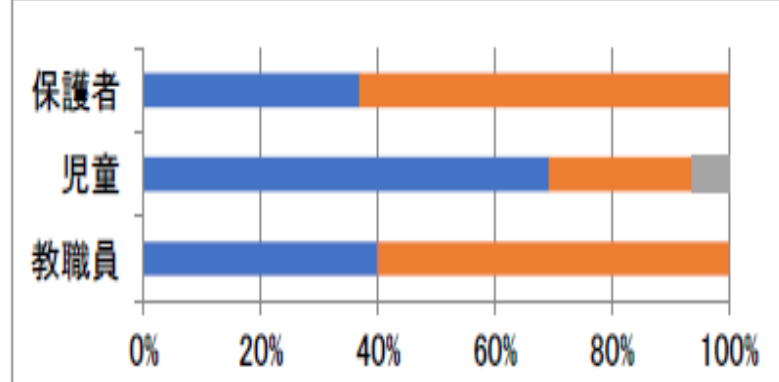
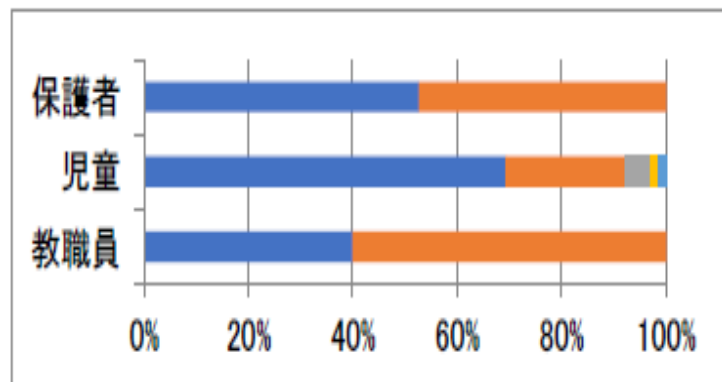
## ④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

### 9 学校独自1

### 10 学校独自2

先生方は「自己有用感に裏付けられた自尊感情」を高める取組をしていると思いますか。

先生方は、校内研修の視点を大切に授業改善を行なっていますか。



保護者・児童・教職員、すべてにおいて、概ね自尊感情が高まっていると感じている。ほめ日記やハートシャワー集会等の取組だけでなく、日頃よりほめる声かけを教職員が行っているからであろう。数名であるが感じられていない児童もいるため、継続的な取組が必要である。

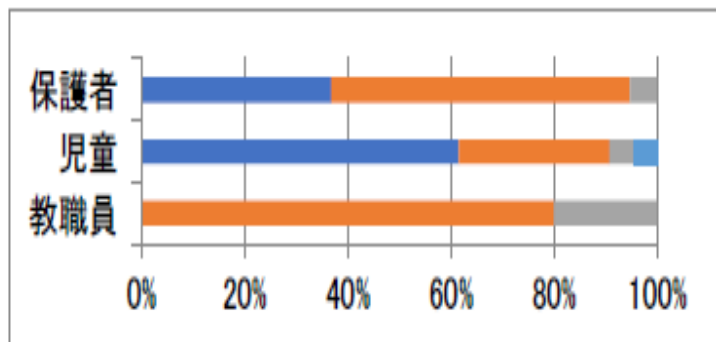
本校の研究の視点①子ども理解と分析をもとに一人の子どもに焦点をあてる授業、②子どもたちが主体的に学びあう授業の工夫が、教職員はもとより、保護者、児童にもしっかり伝わっている。すべての児童にとって「わかる」「楽しい」授業となるよう今後も改善が必要である。

# 学校評価の結果から

## ④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

### 11 学校独自3

子どもたちは、進んで挨拶していると思いますか。



保護者・児童は90%以上が挨拶を進んでしている感じている。しかし教職員は80%にとどまっており、自分から進んで挨拶ができる児童の育成を目指すために、しっかりできていたら褒め、普段から意識付けできようような声かけを継続的にしていく必要である。

# 今年度の方向性

学んだことを人生や  
社会に生かそうとする

学びに向かう力、  
人間性など



実際の社会や  
生活で生きて働く

知識及び技能

未知の状況にも  
対応できる

思考力、判断力、  
表現力など

社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、  
三つの力をバランスよく育みます。

# 学習指導要領改訂の方向性（「生きる力」の理念の具体化）

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力等の育成

## 何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、  
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

## 何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた  
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

**学習内容の削減は行わない**※

## どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得  
など、新しい時代に求められる  
資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い  
理解を図るための学習過程  
の質的改善

主体的な学び  
対話的な学び  
深い学び

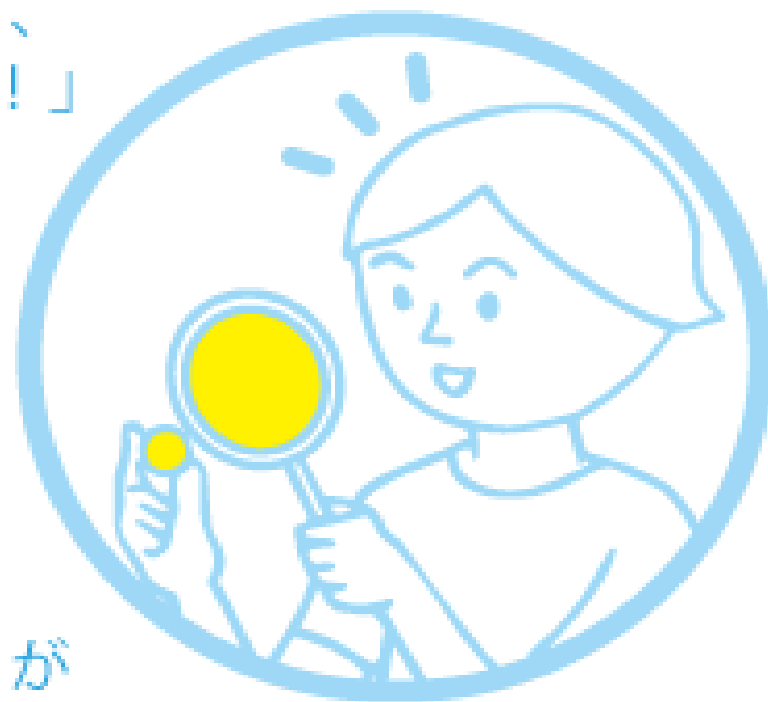


※高校教育については、些末な事実に基づく知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

## 今年度の方向性

一つ一つの知識がつながり、  
「わかった!」「おもしろい!」  
と思える授業に

見通しをもって、  
粘り強く取り組む力が  
身に付く授業に



## 今年度の方向性



周りの人たちと共に考え、  
学び、新しい発見や豊かな  
発想が生まれる授業に

自分の学びを振り返り、  
次の学びや生活に生かす力  
を育む授業に

# 学校づくりは夢づくり



未来を切り拓くことのできる子どもたちへ